

# 日本経済新聞

3月11日

土曜日

## 災害ロボ2階も探索

東北大など開発 はしごを活用

東北大などの研究チームは十日、地震で倒壊しかかった建物の上層階で生存者がいるかを捜し出せる災害ロボットを開発、報道陣に公開した。

大小二種類の親子型ロボットで、二階以上には親ロボットが搭載したはしごを伸ばし、子ロボットを上げる仕組み。救助隊が入り込めないような危

なくて狭い空間でも活躍できるといふ。

親ロボットは幅一・三メートル、長さ二・三メートルで重さ五百キログラム。三百六十度回転するカメラを使って障害物などをとらえながら被災した建物に近づく。がれきの上などを乗り越えることもできる。高い場

所へは、幅〇・五メートル、長さ一メートル、重さ三十キログラムの回り小さい子ロボットに長さ七メートルまで伸びるはしごを上らせる。

子ロボットも小型カメラを装着、遠隔からの操作で自由に動き回る。災害現場の状況を瞬時に伝える機能をもつ。